

「3.11 を忘れない」この言葉は、誰も1回は必ず聞いたことがあると思います。昨年、歌津応援プロジェクトに参加した私は、初めての事ばかりで、見るもの聞くもの全てに驚き、これらのこと全てが、自分の住んでる日本で起きたのだ、と理解することでいっぱいいっぱいでした。そんな昨年の経験を経て、東日本大震災のことをよりいっそう考えるようになったこの1年で、私はこの「忘れない」という言葉の意味を知りたいと思うようになりました。どうして忘れてはいけないのだろうか。「忘れない」とはどういうことなのか。この疑問の答えを見つけるため、私は再びプロジェクトに参加することに決めました。

今年も昨年同様、1日目の夜に佐藤慶治さんのお話を聞くことが出来ました。今慶治さんは、南三陸町の復興に携わる仕事をしているそうで、どうしてその仕事をしようと思ったか、そしてなんのためにその仕事をしているのかを、お話していただきました。「今の子どもたちの町を作っているのは、今の大人。僕たちは、未来を作る仕事をしているんだ。」これは、慶治さんが言っていた言葉です。この言葉は、私の胸にストンと落ちてきました。私たちが東日本大震災を忘れてはいけない理由は、未来の大人やその子どもたちを守るためではないでしょうか。東日本大震災を経験していない人で、1番年上の子はもう8歳になります。今の小学生も、覚えていない子が大半でしょう。そんな未来の大人たちが、どうしたら、再び同じことが繰り返されないように生きることが出来るのでしょうか。1つは、私たちがしっかり伝えることです。今の小学生の歴史の教科書には、東日本大震災のことが載っています。私たちが教科書で関東大震災や阪神淡路大震災のことを見て、ただの歴史、と他人事と捉えてしまうのと同じように、今の小学生は、東日本大震災のことをただの歴史的事実として学んでいるのです。それでいいのでしょうか。本当に学ぶべき本質は、そこにはないと私は思います。大切なのは、“東日本大震災が起こった”という事実を覚えることではなく、情報をたくさん集めて、実際に話を聞いたり、現地に訪れてみたりして、自分の身をもって知ることだと思います。自然災害を止めることは出来ません。しかし、自然災害によって起こる悲劇をもう繰り返さないようにすることは可能です。地震が起きたら、どこへ逃げるのか、その共通認識を家族の中で持っておいたり、家の周りの危なそうなところを確認しておいたりするだけでも、救える命があるはずで、大震災と呼ばれる災害は、50年以内にまた起きると言われています。起きるということを、私たちは知っています。取れる行動が必ずあるはずで、

今回のプロジェクトに参加して、私たちは日本の未来を作っていく立場であること知り、そしてこれから生まれてくる新しい命を守るために、8年前におきたことを忘れてはいけないということ、そして忘れないだけでなく、伝えていかなければいけないことを再認識しました。「遊びに来てくれるだけでも、助けになる。」と慶治さんはおっしゃっていました。私は来年も参加するつもりです。先生方や、先輩方をはじめとするたくさんの方々によって繋がってきたものを、私も繋げていきます。